



福島成蹊中高一貫

学校通信

令和元年7月30日
令和元年度
第5号

夏を制する者は…付記

校長 本田 哲朗

ついに猛暑が訪れた。とは言ったものの、例年より梅雨明けが遅れたに過ぎない。基本的に予定は天候等に左右されないが、中学1年生の『臨海教室』は曇天が続き心配した。しかし、初日の薄曇りを境に、続く二日間は夏の日差しにも恵まれ、予定通り終える事が出来て良かったと思う。また、この夏には一貫初めての中学2年生による『東京大学研修』が実施される。文化・情報両面で遅れを余儀なくされる福島にあって、能動的な提案が芽生えた事を嬉しく思う。なぜなら、与えられただけでは、真の本物が育たないからだ。だからと言って、ひたすら芽生えを信じ、水を与え続けるだけでは発芽しないのもヒトの常なのだ。これを踏まえ、本校(一貫)では、内発を促す様々な行事をプログラミングしている。

8月上旬には『磐梯山の登山』が中学3年～高校3年生対象で行われる。また、高校1年生の『東京大学オープンキャンパス研修』がそれに続く。そして、全学年実施の『夏季学習合宿』で夏が締めくくられるのだが、ところで、これ等の行事は何の為に行うのだろうか？

一つ挙げるとすれば総てのベクトルは、高校3年時の志望校絶対合格に向いている事を忘れないで欲しい。受験は経験した人だけに解る境地があるが、恐らくそれは、勉強だけの力ではないはずである。世に言われる勉強だけで、受験学力が身につく訳ではないからだ。

生身のヒトだからこそ、具体的な目標や意欲等を勉強の中だけに見出す事は難しい。また、学習の継続には、合格したいという思いの外に、必ず勉強の中に潜む楽しさ、理由付け等の深さの追求を伴うものだ。肌感覚と言って良いかも知れない、温かさを感じるものだ。これを感じ得するには、勉強以外に体を使い、汗を流す事も必要だ。勿論、抱える壁を自分自身で…、無理なら皆で協力し、ぶち破り乗り越える事も必要だ。この経験は、無益ではなく必ず自分の力に成って来る。この経験を積むことが行事の眼目だ。また、想像力とは経験値のもう一つの顔だと思うからだ。しかし、勉強を否定するのでは毛頭ない。勉強を常としての事だ。

これまでの私の経験上、こう言った実践経験の多い人と、少ない人との違いは明白だ。対象は何であれ、想定外に対処するには必ず精神力が必要だ。この力をよくよく考えると、諦めない・粘り強く継続する心と言ってよいかも知れない。つまり、経験豊富でそれを生かせる人ほど身につけている力が大きいのだ。

この時期、『夏を制する者は…』が良く引用される。思うに、中学1年生～これまでの行事の一つひとつを制した人は、きっとこの力が身につけているはずだ。更に言えば、夏ならぬ自分を制する者こそ、勝負を制すると言って過言でない。昔の人は良く言ったものだ。ごたくを並べて、辛いモノからすぐ逃げたがる人の性根を見透かしていたと言って良い。

